

絵本の読み聞かせ～共に平和を祈る～

川崎境町教会 教会学校

日本の夏は、平和を願う季節でもあります。特に8月6日（広島原爆）8月9日（長崎原爆）・8月15日（敗戦の日）の悲惨な戦争体験を風化させることなく、次世代の子どもたちに平和の尊さを語り伝えていくのは、私たちの重い責任です。

教会学校では毎年この時期に、平和に関する「絵本の読み聞かせ」を行っています。教会学校礼拝が9時20分にはじまり、礼拝終了後の9時50分頃から礼拝堂で行われます。今年度は、主日礼拝直後にも実施します。

今日、コロナウィルス感染症の対応は、国境や人種を越えて、人類全体の喫緊の課題となっています。この危機が、狭く自国の利益だけを求めるのではなく、人類や地球全体のこと、未来の子どもたちを大切にすることを願っています。この「絵本の読み聞かせ」が、真の平和を考える機会となればと願っています。皆様と一緒に平和を祈り考えましょう。

7月18日（日）	のぼら 国境をそれぞれ守っている老兵と新兵は、仲良しだった。やがて戦争が起こり、二人は敵同士にかわる。若者は前線に向かい、老人は悲しみの中で戦争を憎むのだった。原作：小川未明、脚本：堀尾青史、絵：櫻井誠	
7月25日（日）	ざっそうweeds ノーベル科学賞受賞者ロアルド・ホフマンが原作。彼自身がホロコーストを経験し、ウクライナ人の家の屋根裏部屋にかくまわれ生き延びた。彼自身が雑草であった。絵：吉澤みか、構成：きむらゆういち	
8月1日（日）	ヒロシマ 消えたかぞく 原爆で家族が全滅した、鈴木六郎さん一家のファミリーヒストリー。子どもたちのはじける笑顔、日々の暮らしと広島風景。すべてを吹き飛ばした原爆でも、一人の人間が生きた証は吹き飛ばせない。写真：鈴木六郎 著者：指田和	

毎回、読み手がこの絵本を選んだ理由を話し、最後に讚美歌371番「この子どもたちが」を歌い、祈ります。